

安達 辰喜 議員



**住民ニーズの多様化、複雑化の中、各事業の検証と課題として次の3点について問う**

**Q** 財政状況悪化による各事業の見直しが必要であるが、具体的には？

**A** **村長** 他市町村に比べ高水準の行政サービス維持は厳しい。聖域なき削減が必要となり、特別職給料、職員手当の削減を行うなど、村民と痛みを分かち合うかたちの予算編成となった。金銭的なサービスは低下したが、それ以外のサービスは継続し

守っていく。

**Q** 農業関連予算の検証と今後の取組みについて。

**A** **村長** 国の各種の事業に積極的に取り組み、直接的、間接的な所得向上対策に取り組んだ結果、一定の効果があるものと考えている。

**Q** 道路改良工事について計画の縮小はないか、または原材料支給で出来る工事の推進について。

**A** **村長** 各種計画に基づいて順次進行しているが、過疎債などの有利な起債事業以外は着手の優先順位について、機動的な判断をしていく。原材料の支給により事業費を圧縮する方法は、計画している路線に様々な要因があり、その都度、十分に検討する。住民との協働がより費用対効果が高いと判断した小規模事業は、導入したい。

**白水、久木野土地改良区の合併について、もし合併するとすれば、これまでの経緯と諸問題があると思うが、村長の考えは？**

**A** **村長** 合併後の村民の一体感の醸成が早くなされること、各種農業政策の統一的な実施などからみても村内の土地改良団体がひとつになっていただく方向で、両団体に取り組んで欲



記念碑の除幕式の様子

しい。しかし、条件の違いなどもあり、一足飛びに合併とか、村がそれを強力に進めるといいう手法ではなく、まず、違いや解決すべき点を明らかにして、それに丁寧に対応していくことが肝要だと考える。

**Q** 基盤整備事業の受益者負担金及び徴収方法は、又滞納者はいないのか。

**A** **産業振興課長** 旧白水・久木野に於いては県営一部団体営、長陽は全て団体営で事業を実施しており、負担割合もその事業年度により違っている。

徴収については現在、白水・久木野地区は土地改良区で、長陽は村で実施している。滞納者は、それぞれの地区にいる。

**Q** 滞納者の償還金の立替、受益者負担金の借入先は。

**A** **産業振興課長** 立替については旧村毎に取り組みが違っており、村で立替えている地区もある。